

科目名称:教育相談の基礎					
担当者名:平口 真理					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
教職	4年前期	講義	自由	2	自由科目につき該当なし(自由科目につき該当なし)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		16302047
授業概要:学校では、学業、進路、適応など子どもたちが抱える様々な問題への対応が求められている。悩んでいる子どもや保護者に、教員としてどのような援助をしていかなければならないかを考え、その方法を学び、実践に活かす基礎力を身につける。					
到達目標:1. 教育相談の目的と活動内容、教育相談の対象、実施者、方法について理解し、概説できる。 2. 校内及び関係機関との連携とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用について理解し、概説できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 教育相談を学ぶ意味とその課題			文部科学省のHPで教育相談について閲覧する(60)		
第2回 生徒理解のための心理学			発達心理学、教育心理学、臨床心理学で該当箇所の復習とアセスメントの予習(60)		
第3回 生徒の発するシグナル、アセスメント			カウンセリングマインドについて下調べする(30)		
第4回 学校カウンセリングとカウンセリングマインドの必要性			ラポール形成、傾聴について下調べをする(30)		
第5回 カウンセリングの基礎的な姿勢と技法			教育相談体制、チームとしての学校について下調べをする(60)		
第6回 教育相談の計画作成や校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性			教科書 P107-135,165-166 の予習(60)		
第7回 いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する生徒の発達段階に応じた教育相談の進め方			教育相談コーディネーターについて下調べをする(30)		
第8回 生徒及び保護者に対する教育相談の目標の立て方			発達障害について下調べする(60)		
第9回 子どもの発達特性を踏まえた理解と援助			専門機関、関係機関について下調べする(60)		
第10回 地域の保健・医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性			教科書第5章、第6章の予習(60)		
第11回 ソーシャルスキル教育、ストレスマネジメント教育			教育実習で出会った事例についてまとめる(30)		
第12回 事例研究			教科書 P153-163 の予習(30)		
第13回 学校の危機管理			教科書 p167-180 の予習(30)		
第14回 学級経営による子どもの援助			Q-U 式学級集団づくりについて調べる(60)		
第15回 まとめ			レポート課題について下調べをする(60)		
履修に必要な予備知識や技能:ディスカッションできるように教科書を読み、必要な事項について調べておく。					
課題に対するフィードバック:授業中のディスカッションの中で講評と解説をする。					
評価方法・基準:レポート 80%、受講態度(授業への参加度) 20%					
教科書:教科書:「絶対役立つ教育相談」水野治久・本田真大・串崎真志編著(ミネルヴァ書房) 参考書:「中学校学習指導要領」文部科学省、「高等学校学習指導要領」文部科学省、「中学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省、「高等学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省					
備考:					
実務経験の内容・期間:臨床心理士(34年)、スクールカウンセラー(28年)					